

都市再生整備計画 事後評価シート

みかわ あんじょう きょうそうちく
三河安城マチナカ協創地区

令和7年3月

あいちけん あんじょうし
愛知県 安城市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	安城市	地区名	三河安城マチナカ協創地区			面積	57.3ha				
交付期間	令和3年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和6年度	交付対象事業費	53百万円	国費率	0.5						
1)事業の達成状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 公園、地域生活基盤施設(緑地・広場)、地域生活基盤施設(公開空地)、地域生活基盤施設(情報板)、高質空間形成施設(緑化施設等)、高質空間形成施設(歩行支援施設)、滞在環境整備事業										
		提案事業	-										
		事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	公園、地域生活基盤施設(公開空地)、地域生活基盤施設(情報板)、高質空間形成施設(歩行支援施設)	社会実験の結果をもとに不要と判断したため。		影響なし。							
		提案事業	-										
	新たに追加した事業	基幹事業	-										
		提案事業	-										
	交付期間の変更	当初	令和3年度～令和7年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	数値目標が達成されており、交付期間の変更による影響はない。								
		変更	令和3年度～令和6年度										
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)
			基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
指標1		公共空間等を活用した、まちをつかう！プロジェクト数	回/年	5	R2	48	R6		54	●	あり なし	マチナカブレイスメイキング事業の認知度の向上やリノベーションした公共空間の割合の増加などの相乗効果が発現したため。	
指標2		つかってつくる！リノベーションエリア	%	0	R2	17	R6		22	●	あり なし	まちをつかう！プロジェクト数やまちをつかう！プレイヤー数が増加したことから、リノベーションエリアの公共空間の割合も運動して増加したため。	
指標3		まちをつかう！オーディエンス獲得数	人/年	290	R2	4,800	R6		8,419	●	あり なし	まちをつかう！プロジェクト数やまちをつかう！プレイヤー数の増加にともない、民間活動への参加機会が飛躍的に増加したため。	
指標4		まちをつかう！プレイヤー数	団体	4	R2	10	R6		29	●	あり なし	マチナカブレイスメイキング事業が広く認識され、またイベントの参加者も増加していることに影響して、活動の企画に意欲的な民間団体が増加したため。	
3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	-		-					-				
その他の数値指標2	-		-					-					
4)定性的な効果発現状況	-												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
	官民連携による取組		・シーホース三河株式会社等とまちづくりにおける連携協力に関する協定を締結した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				● ・公民連携により公共空間を利用した活動の高次化を図る。 ・民間の持つ技術で収集したデータを有効活用する。		
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり体制の構築		・プラットフォームとして、つかうmeet会議の定期開催、運営補助を実施した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				● ・民間団体の自立を促しつつ、サポートとして連携していく。 ・整備において、活動者や利用者の意見の活用を図る。		
都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した													
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

三河安城マチナカ協創地区(愛知県安城市) まちなかウォーカル推進事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
・パブリックスペースの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動との連携(協創)による「心地よくまちをつかい続けられる」しくみの形成。		公共空間等を活用した、まちをつかう！プロジェクト数	回/年	5	R2	48	R6	54	R5
・公共空間と隣接する民間セットバック用地の活用をきっかけとした、ステークホルダーとの連携(協創)による「心地よくまちをつかい続けられる」空間の形成。		つかってつくる！リノベーションエリア	%	0	R2	17	R6	22	R6
・マチナカプレイスメイキングの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動とステークホルダーとの連携による「居心地よく滞在できる」マチナカの形成。		まちをつかう！オーディエンス獲得数	人/年	290	R2	4,800	R6	8,419	R5
		まちをつかう！プレイヤー数	団体	4	R2	10	R6	29	R6

つくるへつながる、まちをつかう取組。

- 滞在環境整備事業
三河安城マチナカ協創地区 (中央駅前広場ほか)
中央駅前広場のレイアウト変更検討・暫定実施
- 滞在環境整備事業
三河安城マチナカ協創地区 (中央駅前広場)
屋根・ベンチ等設置検討
- 滞在環境整備事業
三河安城マチナカ協創地区 (南駅前広場)
屋根・ベンチ等設置検討
- 滞在環境整備事業
三河安城マチナカ協創地区 (旧・駅前中央通/緑化施設敷地活用他) ベンチ設置検討
- 滞在環境整備事業
三河安城マチナカ協創地区
社会実験のコーディネート支援
- 滞在環境整備事業
三河安城マチナカ協創地区
つかう.meetコミュニティネット支援
- 滞在環境整備事業
つかう.meet運営
- 滞在環境整備事業
まちづくりに関する連携協力に関する協定制度
- 滞在環境整備事業
まちまサポート事業
- 滞在環境整備事業
三河安城マチナカ協創地区
デザイン推進協議会支援

都市再生整備計画区域 ※都市機能誘導区域

周辺図

当該地区

18.7万人 (R7.1時点)

凡例

- 基幹事業
- 提案事業
- - - 関連事業

0 50 100 200 300 400 500 メートル

まちの課題の変化	・民間活動に見合った機能（電源・給排水等）の充実を図り、公共空間をつかう活動を増やすことができた。 ・社会実験を通じて収集したデータによって活動者・滞在者ニーズを把握できた。 ・公共空間を利用した活動が増え、まち全体の稼ぐ力を高めていく土壌が培われた。 ・地域の目玉となり、民間まちづくり活動の拠点となる場所が求められている。	
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	・社会実験等、公共空間を「つかう」ことで蓄積された滞在者・活動者ニーズについて、「つくる」フェーズに移行し、より利用しやすい環境整備の検討を行う。 ・社会実験にて好評であった要素を取り入れた民間まちづくり活動を支援し、より高次的な活動の創出を図る。	